



いばら 公共交通かわら版

令和元年度住民アンケート調査結果について

井原市公共交通会議では、市内にお住いの方を対象に、公共交通の利用状況や満足度等に関するアンケート調査を行いました。本号では、その結果についてご紹介します。

| 調査の概要 | |
|-------|---|
| 調査対象 | 5,800世帯を無作為抽出 |
| 調査時期 | 令和元年12月 |
| 調査方法 | 郵送配布・郵送回収 |
| 回収結果 | 世帯票：1,961通 (33.8%) () : 回収率 個人票：3,299通 (28.4%) |

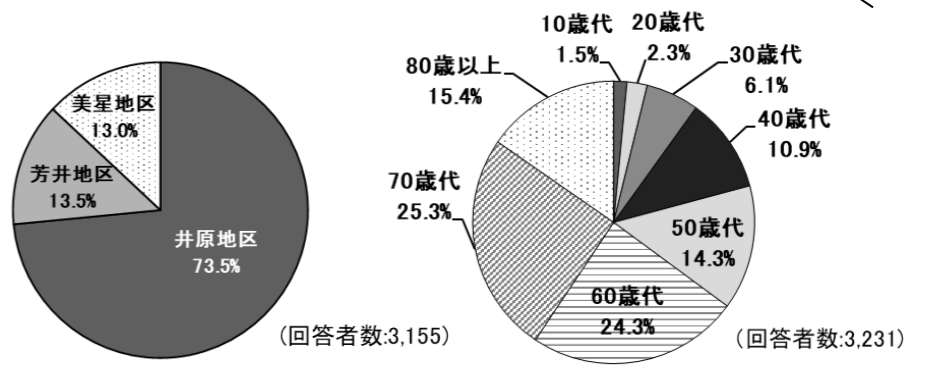
今回のアンケート調査では、市民の皆さんの移動実態や公共交通に関するニーズを把握することで、取組を検証し今後の施策に生かすことを目的に実施しました。また、これまでも井原市公共交通会議では、「井原市地域公共交通網形成計画」の策定にあたり、平成25年12月に今回と同様のアンケート調査を実施しています。



でんちゅうくん

回答者の属性

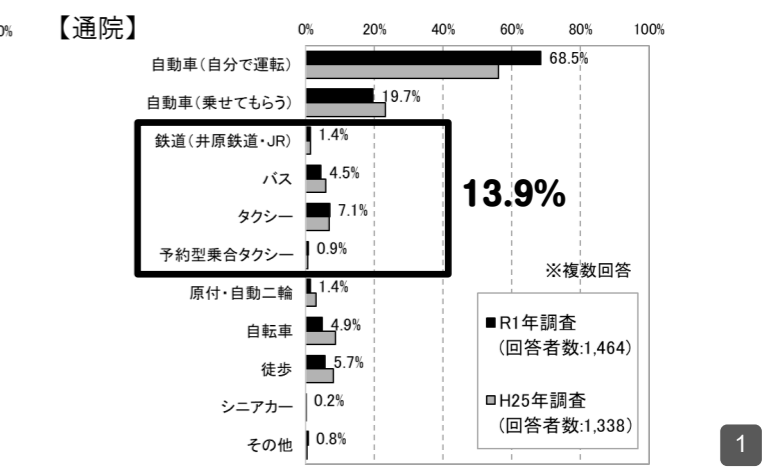
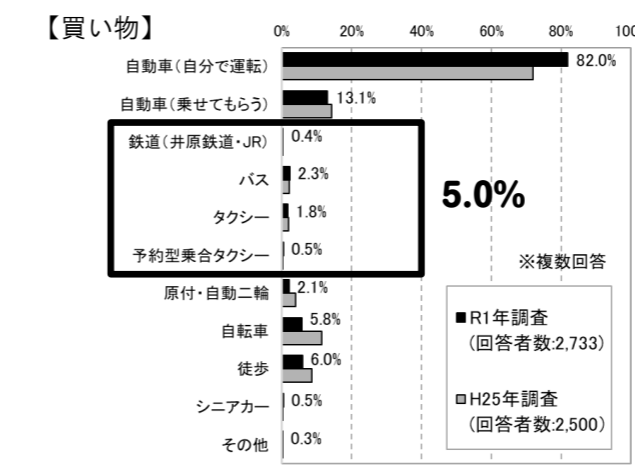
井原地区の回答者が全体の73.5%を占めており、芳井地区と美星地区の回答者が共に13%程度を占めています。また、回答された方の年齢層は、60歳以上の方が全体の65%を占めており、60~70歳の割合が高くなっています。



アンケート調査結果 買い物や通院で利用している交通手段

買い物については、「車(自分で運転)」が82%を占めており、前回より10ポイント程度増加しています。また、公共交通の占める割合は5.0%です。

通院については、「車(自分で運転)」が68.5%を占めており、前回より10ポイント程度増加しています。また、公共交通の占める割合は13.9%で、買い物に比べて公共交通で移動している人の割合は高くなっています。



令和2年度井原市公共交通会議の事業内容について

1 「バス体験学習会」等の開催

子どもたちにバスに親しんでもらい、バスの将来的な維持継続に向けた利用促進に繋げることを目的とした、「バス体験学習会」等を開催します。



▲バス体験学習会の様子

2 「公共交通かわら版」の発行

地域と協働して公共交通体系を維持していくにあたり、「井原市地域公共交通網形成計画」で実施する様々な取組の内容や実施状況を地域住民に紹介する「いばら公共交通かわら版」を発行します。

3 公共交通利用のPR

地域と協働して公共交通体系を維持していくにあたり、情報提供を行うため、路線・ダイヤの見直しに合わせた利用啓発の公共交通マップ(時刻表)を作成するなど、公共交通の利用啓発に取り組みます。



▶いばらおでかけバスマップ

4 「公共交通祭り」の開催

地域住民に公共交通に親しんでもらい、生活交通を見直すきっかけの場とすることを目的に、「井原市公共交通祭り」を開催します。



▶昨年の公共交通祭りの様子

5 「子どもの車内アナウンスバス」の運行

地域住民にバスに親しんで利用してもらい、利用促進に繋げるため実施している「子どもの車内アナウンスバス」を引き続き運行します。

6 「バス乗降サポート制度」の実施

バス路線の沿線の商店や医院、事業所等を募集して、バス停にベンチを置かせてもらう取組(バス乗降サポート制度)を実施します。



▲制度で設置したベンチ

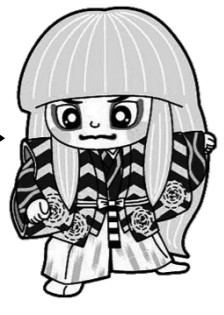
7 公共交通の維持再編に係る実施事業

平成28年度から令和2年度までを計画期間とする「井原市地域公共交通網形成計画」に基づき、市

内のバスの路線・ダイヤの見直し、予約型乗合タクシーの運行拡大を進めます。

【令和2年度の事業内容】

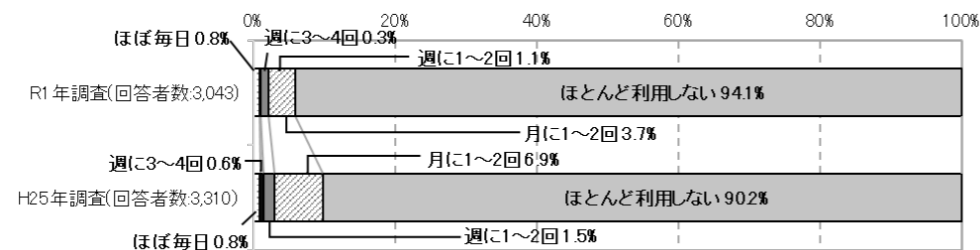
- 運行見直し基準に基づきサービス水準の適正化を図ります。
- 現在、「公共交通てくてくエリア」(自宅から概ね徒歩圏内で公共交通を利用することができ区域)に該当しない地域等において、予約型乗合タクシーの運行拡大を図ります。
- 主要交通結節点等において、バス利用者から聞き取り調査を行います。
- 住民説明会や意見交換会を開催します。
- 「井原市地域公共交通計画(仮称)」を策定します。



なお、今年度の事業は新型コロナウイルスによる影響等を考慮して進めていきます。

バスの利用頻度

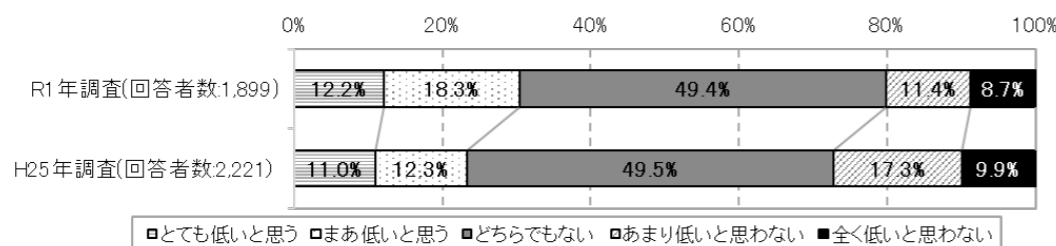
5.9%が月1~2回以上バスを利用しています。前回調査で月1回以上バスを利用している人は9.8%であり、3.9ポイント低下しています。



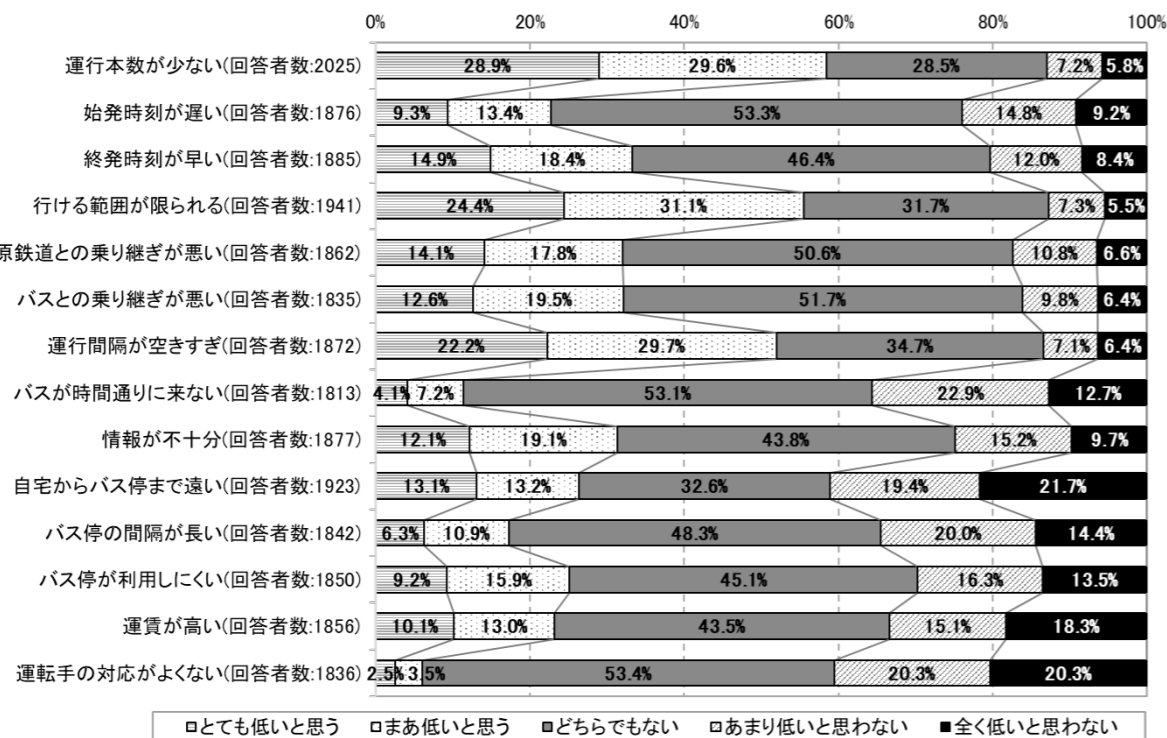
バスサービスの満足度

「総合的な満足度」については「低い」と感じている人の割合は30.5%で、前回(23.3%)から7.2ポイント増加しています。また、「どちらでもない」と感じている人の割合は、前回とほとんど変わっていません。個別項目では、「バスで行ける範囲」「運行間隔」「運行本数」の満足度が低くなっています。

【総合的な満足度】



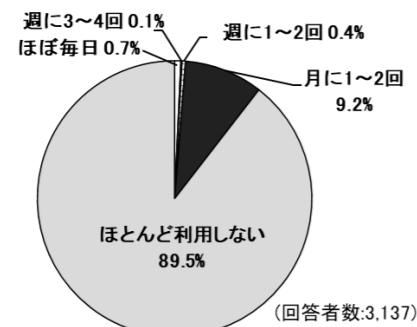
【個別項目】



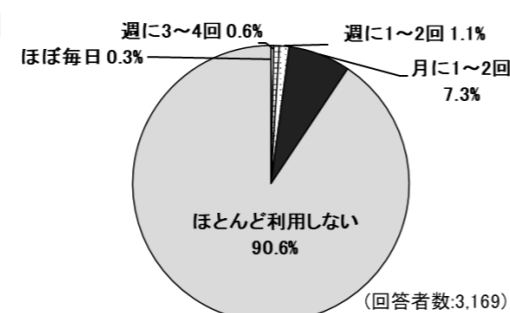
鉄道やタクシーの利用頻度

井原鉄道を定期的にご利用している人は1.2%で、「ほとんど利用しない」が89.5%を占めています。また、タクシーについては、「ほとんど利用しない」が90.6%を占めています。

【井原鉄道】

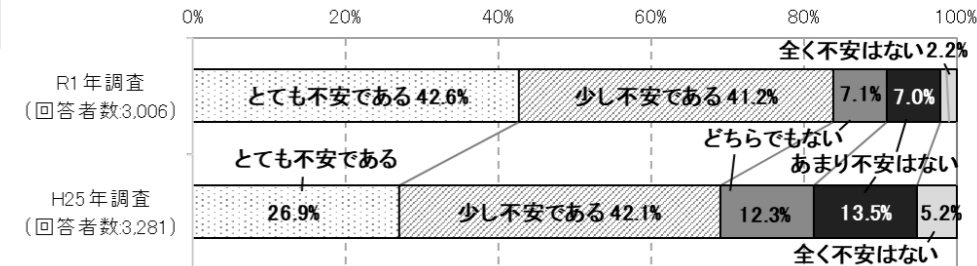


【タクシー】



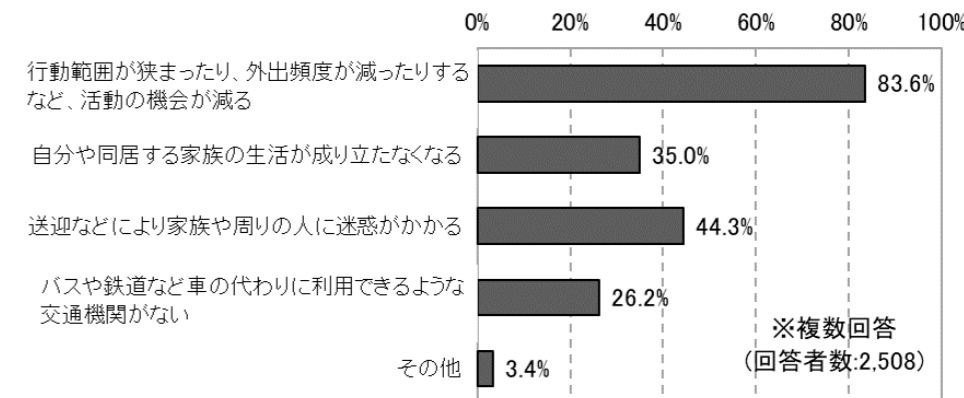
将来の移動に対する不安

将来の移動に対する不安については、「不安である」の割合が前回から14.8ポイント上昇しています。



車の運転に関する意向

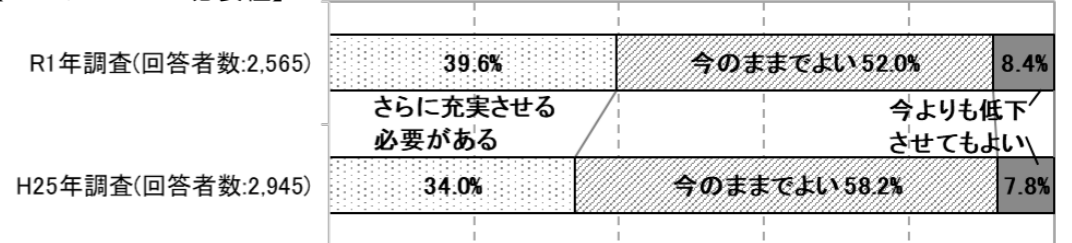
運転免許証を返納した際の困りごととして、「行動範囲が狭まったり、外出頻度が減ったりするなど、活動の機会が減る」が80%以上を占めています。



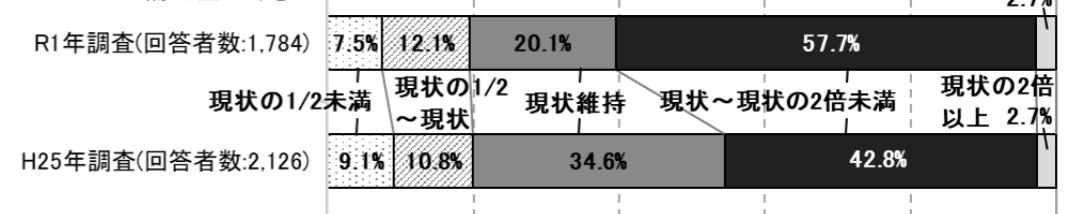
バスサービスの必要性

バスサービスを「さらに充実させるべき」の割合が、前回から5.6ポイント上昇しています。また、バス運行維持のための市の補助金を増やした方がよいと考える人の割合も、前回から上昇しています。

【バスサービスの必要性】

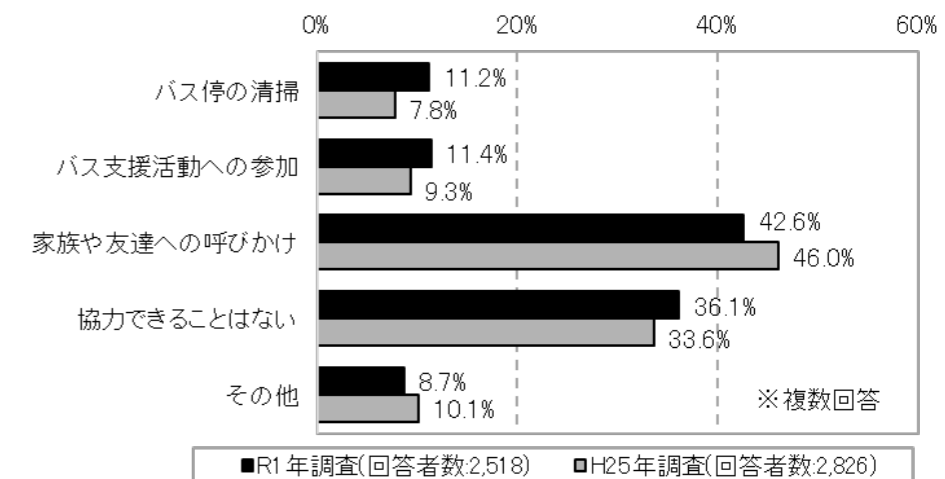


【バス運行維持のため投入してもよい補助金の額】



バス運行維持のために協力するためにできること

全体の約半数が「家族や友達への呼びかけ」ができると回答しています。



今回ご紹介したアンケート調査結果を活用し、井原市における公共交通や地域の移動に関する課題の整理を行うことで、新たな「井原市地域公共交通計画」の策定を今年度予定しています。なお、計画の策定状況については、この「公共交通かわら版」の紙面にてご紹介いたします。